

編集 後記

この号を手にとられている頃は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に見直されている状況だと思えます。これまで、医療機関や行政をはじめとして、感染症対策の第一線で対応された皆さまに心から感謝と敬意を表します。ただ、5類に位置づけられたとしても、感染症対応の必要性が全くなくなるわけではございませんので、読者の皆さま方を含む、関係者の皆さま方、引き続きよろしくお願ひします。

70巻5号では原著2編、公衆衛生活動報告1編、資料1編が掲載されています。川村らの研究では、都市部における妊娠への適応の観点からみた不良な夫婦関係に関連する要因として、不妊治療による妊娠、妊婦の怒りや苛立ち、夫の健康不良であり、専門職者は妊娠中にこれらの夫婦への支援を焦点にする必要がある、とまとめられています。政府として子育て支援が強化されている昨今の状況と照らし合わせても、大変貴重な報告だと考えられます。若子らの都市部住民における塩味味覚閾値の規定要因に関する研究では、喫煙習慣を有することと、推定一日食塩摂取量の多さが、塩味味覚閾値が高いことと関連しており、健康診断や保健指導の場で、活用できるデータを示していただきました。

伊藤らの介護サービスの担い手養成プログラムに関する公衆衛生活動報告では、地域住民をサブスタッフ（介護予防の一定の知・技術と守秘義務を持ち、職員の支援のもと自立に向けたケアを有償で提供する補助スタッフ）として養成する「サブスタッフ養成講座」を開発したものであり、介護サービスの担い手不足を軽減する可能性を秘めた貴重な報告であると考えられます。

川内らの保健所職員による精神科措置入院者への退院後支援の実態調査の報告では、保健所職員が退院後支援を行いやすくするためには、学会・研究会参加の時間を確保すること、関わり続けることへの意義を感じられるようにすること、支援の効果をフィードバックしてもらうこと、そして関係者会議で情報共有することが示されています。明確な結果が得にくい退院後支援の中では、“支援の意味付け”を周りの職員も含めて働きかけていく必要があることを示した報告であると感じました。

本誌では、新規性や公衆衛生分野へのインパクトの大きい原著論文はもちろんになりますが、この雑誌を手にとることが多い、最前線で公衆衛生活動に取り組んでいる多くの実務者にとっても有益な活動報告も、会員の皆様により多く届けられればと思ひます。今後も公衆衛生の研究者、実務者に有用な研究、報告の投稿をお待ちしております。

(大類真嗣)

次号予告 (第70巻・第6号)

特別論文

高齢者の市中肺炎（院外肺炎）の危険因子とインフルエンザワクチン・肺炎球菌ワクチン接種：公衆衛生モニタリング・レポート委員会報告
.....鷲尾昌一，他

原著

妊娠期における父親のパートナーに対する関わりとボンディング障害の関連.....田中嘉琦，他
外国人技能実習生の健康：来日から1年間の質的縦断的研究.....相田華絵，他

公衆衛生活動報告

手紙と電話による特定保健指導の利用再勧奨の効果：都市部における保健指導利用に積極的な層への無作為化比較試験.....村山洋史，他

資料

新型コロナウイルス感染症にかかる緊急事態宣言等の発出・発出要請と感染経路不明新規陽性者数のトレンドとの時間的關係：大阪府における第3波・第4波の分析.....高橋佑紀，他